

千葉県連盟結成75周年記念事業 カブスカウト部門

ウッドカーダービー

うみかぜ地区

楽しいウッドカー作り

袖ヶ浦第1団 藤井 美帆

私は何か物を作製したりするのが好きです。そんな私が、おどろくべきことに、ボーイスカウトでウッドカーを作るという活動に参加することになりました。

ウッドカーを作製する当日、なるべく遠くに進むようにと考え、できるだけ木材を減らさず、重くなるようにしました。また、デザインにもこだわりたかったので、色をぬって丸い人形を乗せました。

作っている時は、組のみんなとウッドカーのデザインを考えながら作製に取り組みました。その時私は、「予選を通過できるといいなー」と思っていました。当日までとてもワクワクしていました。

私は、残念ながら別の用事で予選に行くことができませんでした。しかし、自分の組の子が、二人も予選を通過し、県大会に出場できることになって、とてもうれしく思いました。

来年はボーイ隊に上進します。カブ隊で学んだことやウッドカーを作ったことを忘れずに、ボーイ隊でも楽しく活動できたら良いです。



かわかぜ地区

「ウッドカーダービー」に参加して

流山第3団 荒井 拓人

話を聞いた時にウッドカーダービーってどんなものだろう？と思いました。実際に作ってみて作り方は難しかったけど、出来は良いなと思いました。

地区予選では、他の人の作品を見てすごいなと感じました。何より他の人が10メートル以上走らせていてすごいなと思いました。自分の車を走らせてみてそんなに距離は伸びないだろうと思っていましたが、本当に伸びなかったからびっくりしました。

次やる時はもっと車をなるべく距離が伸びるような工夫をしたいです。



それぞれのウッドカー

流山第3団 高力 風子

わたしは、ウッドカーダービーにはじめてさんかしました。どんな風いきそうのかわからなかったんで、大きな台がありびっくりしました。3回チャレンジできましたが、1回目はすごく曲がってしまい1メートルくらいしか進みませんでした。

見た目部門でさんかし、見た目にこだわって作ったので、うまく進まなかったのかなあと



思います。でもさいごは3メートルぐらい進んだのでうれしかったです。他のたいには10メートルいじょう進んだ子もいました。長く進んだ子のウッドカーはどんなくふうがされているのか見てみたかったです。見ることができたウッドカーはそれぞれいろいろなくふうがされていておもしろかったです。また次もさんかしたいです。

ウッドカーのくふう

流山第3団 小林 輝希

ぼくは、ウッドカーダービーの地区大会に出場しました。はっしゃだいのかくどが思ったより急でびっくりしました。ほかの人が車を走らせているのを見て、ペットボトルキャップにゴムを付けるとすべりにくくなって、きよりがのびることがわかりました。あと、車りんのどまんなかにちゃんとあなをあけないとほかのほうこうにまがったりして、きよりがちぢんでしまうことがわかりました。

うまく走るためにはどうしたらよいかを考えていろいろなくふうをするのが楽しいと思います。



ウッドカーダービーに参加して

流山第3団 萩原 実紅

私は、ウッドカーダービーに出すウッドカーの木を切るのに苦労しました。重さがちょうどよくなるように工夫しました。

ですが、ウッドカーダービーで実際に走らせてみると、ストローのところが曲がっていたので、3回とも曲がって走ってしまい、いい記録になりませんでした。

あと、飾りがちいかわのシールだけというのが寂しかったと思います。

遠くまで走った記録の中でも十一メートルまで走っていたのに驚きました。そして、うさぎ、しか、くま、の三位の中に流山第3団の人のものが3個もあったのがすごいと思いました。

もしこれからウッドカーを作るということがあったら、重心が後ろに行くように工夫し、飾りつけももう少し豪華にしたいと思います。



くやしかったウッドカーダービー

流山第3団 福地 真治

ウッドカーはタイヤにテープをつけただけの簡単な作りで参加しましたが、うまく走りました。5m きました。もっと上から走らせれば3位になれたかもしれず、かなり悔しかったです。

走らせる順番が一番初めになってしまい、ルールの説明が足りず上から走らせなかったのも、ぜんぜんできなくて残念でした。

むずかしかったこと

流山第3団 藤本 彩花

わたしはむずかしかったことが3つあります。1つ目は、ウッドカーのタイヤをつけるストローをつけるのがうまくくっつけるのがむずかしかったです。2つ目は、まっすぐすすむためにつけるおもりのいちをきめるのがたいへんでした。3つめは、どこまでかいぞうしていいかわからなかったからなにもできませんでした。つぎのたいかいのときにはこんかいのことをわすれないでどこまでかいぞうしていいかをきいてじゅんぴしたいと思います。



おおとね地区

ウッドカーダービーに参加して

香取第1団 黒田 隆惺

はじめにウッドカーダービーと聞いて、頭にうかんだのはぼくの大好きなゲームの車でした。

車検があるので、大きさや重さに気をつけてかっこいいレーシングカーになるように木材を選びました。

集会で作った時は、まっすぐに走りませんでした。ペットボトルのキャップに黒いテープをまいたり、まっすぐな竹ぐしを選んだり、おもりを付けたり工夫しました。

信太君がどんぐりをくれたのでレーサーにしようと思い、赤いぼうしをかぶせて車に乗せました。

地区予選では、先に長く走らせていた他の団のスカウトもいっしょに見守ってくれて、記録の良かった3人でドキドキしながら止まるまで追いかけました。

結果は13mで、2人に「すごいね」と言われて僕はとてもうれしかったです。

レースが終わった後、たくさんのスカウトから「いっしょに走らせて」と声をかけられて、楽しかったです。

ウッドカーを作るのも楽しかったけれど、みんなでレースをしたことがおもしろくてとても良い経験が出来たと思います。今回の経験で自信をもつことができました。



ウッドカーダービーに参加して

銚子第3団 三浦 碧真

ウッドカーを作ることが決まった時に、糸ノコがなく、滑らかに木が切れないなと思い、どのような形にしようか考えました。自分は生き物が好きなので、亀をモチーフにしてウッドカーを作ろうと思いました。

木を切り刻んで亀のこうらのようにくっつけて、作ってみることにしました。

デザインを書くのは難しかったです。

隊長にノコギリや小刀の使い方を教わりました。亀のこうらの部分を細かく切るのは大変でとても疲れました。活動の時間の中で終わらなかったのも、色塗りは家でやりました。工夫した所は、色を少しずつ変えて、亀のこうらを表現しました。完成した時に、自分で「ウッド亀（カーメ）」と名前を付けたので、愛着がわきました。

実際にウッドカー予選に出てみて、おおとね地区のスカウト達と交流できたので良かったです。くまは銚子第3団では自分1人なので、他の隊のくまと交流ができたのが嬉しかったです。

実際にウッドカーを走らせてみて、色々なデザインの車があって、面白かったです。結果が出るのが今から楽しみです。県大会にみんなで行けるといいな。

ウッドカーダービーの感想

銚子第3団 石毛 双葉

ウッドカーダービーでは、初めて会ったスカウトがたくさんいたけど、何人かときよりをきっていると、自然と仲良くなれてうれしかったです。また、ウッドカーダービー本番より、その後にしたスカウトとのきよりきょうそうのほうが進んだのは悔しかったです。そうさ市のスカウト達のウッドカーのデザインがすごすぎておどろいて言葉が出ませんでした。（このデザインを自分がやったら1年はかかるな。）と思ったほどです。銚子第3団のスカウトもきよりが長かったので、（上位に入れるかも?）と思いました。

不思議なウッドカー

銚子第3団 中川原 誠太

ウッドカーダービーに参加し、僕は作ったときに「かなり上位にいけるのではないか」と思っ

ていました。なぜかという、当時僕は、重い＝長いきよりを進むと思っていました。なので、僕は重めに作りました。ところが、地区予選に行ってみると、ものすごくかかるような車が長いきよりを走っていたのです。この体験でかるいほうが長いきよりを進むことが知れました。またこのような機会があった時にこの反省を生かしてつくりたいと思います。

ウッドカーダービーに参加して

銚子第3団 小野 陽南太

みんなと一緒にレースができて、楽しかったです。また、みんなで参加したいです。

ウッドカー

銚子第3団 宮内 絃

2月2日、ぼくはウッドカーダービーに参加しました。最初に車検を受けました。車検というのは大きさや重さでズルをしていないか検査することです。ぼくのウッドカーは横の長さがギリギリだったので、ホッとしました。次に、競技が始まり、ぼくの順番は9番目でした。前の順番の人は海をモデルにして、きれいでした。距離はだいたい7mで、予想より遠くに進んで努力が実ったかと思いました。一番良かったのは、色々なデザインのウッドカーを見られたことです。特にいいなと思ったのは、香取のボーイスカウトの蛇をモデルにしたウッドカーでした。自分もこんなウッドカーを作りたいと思いました。

猫

銚子第3団 脇本 優花

私のウッドカーのコンセプトはスピードです。デザインは、柔軟な体で足の速い「猫」にしました。猫と言っても、ただの猫ではありません。うちの猫、名は「ココア」、生後10か月、スタートダッシュは世界一位と言っても過言ではありません。スピードを速くするために、タイヤに重り（ねんど）をつけました。私は、今回初めてウッドカーダービーに参加しました。人がたくさんいて、ドキドキとワクワクで胸がいっぱいでした。色々なアイデアが詰まったウッドカーが見られて良かったと思いました。

ウッドカーダービー

銚子第3団 宮内 梓

2月2日(日)にわたしは、海上キャンプ場の体育館でウッドカーダービーに参加しました。他の隊の人のウッドカーは、アイロンビーズや貝がらを使っていて、グッドデザイン賞で負けてしまうかと思いました。次に競技が始まり、うさぎスカウトは最後でした。うさぎスカウトの番になり、わたしのウッドカーが一番遠くまで走りました。わたしは、7mくらい走り、他の隊の人は2mから4mくらい走っていました。一番すごいと思ったのは、他の隊の黒いスポーツカーです。本物のスポーツカーみたいでカッコよかったです。わたしのウッドカーが一番遠くまで走って、うれしかったです。

ウッドカーダービーに参加して

銚子第3団 高根 璃久

ウッドカーダービー地区予選会、がんばったことはウッドカーを作ったことです。理由は、ノコギリや絵の具を使ったからです。楽しかったことは、ウッドカーを走らせたこと、ゲームをしたこと、あとはモップがけです。そして、お昼ご飯はおなかがすいていたので、よりおいしく感じました。閉会式と開会式は少し長かったので、たいへんでした。けれども、無事終わって良かったです。そして、少しだけ特別な集会でした。

ウッドカーダービーに参加して

銚子第3団 梅田 佳知

ウッドカーを作る時に、できるだけ遠くに行くように工夫しました。理由は、木をくりぬいて金属をうめこんで重くしたからです。1回目走らせた時は、最初の方の人たちが8メートルから9メートルくらい走っていたのできんちょうしましたが、ぼくの記録は10メートル7センチだったので、少しはホッとしました。2回目は、1回目では左に曲がってしまったので、少し右側に走らせたなら、レールにぶつかり8メートルしか走りませんでした。できればもう1回やりたかったです。県大会に出たいです。

ウッドカーダービーに参加して

銚子第3団 苫谷 稜太

ウッドカーダービーに参加するために、ぼくは先端に、ドリルが付いている車を作りました。ナイフでちょっとずつ削って先端を丸くしました。きれいに丸くすることが難しかったけど、いい感じに仕上がりました。車体の上には TNT をのせました。TNT は爆弾です。なぜ TNT を作ったかというトンネルの工事現場を再現したくて、僕の好きなマイクラフトというゲームに出てくるからです。TNT の色を塗る事が楽しかったです。レースの結果は、1 回目は 646.2 cm、2 回目は 823.6 cm で、15 人中 4 位でした。あと少しだったので悔しかったです。

ウッドカーダービーに参加して

銚子第3団 深澤 隆博

ぼくのウッドカーは、車輪がうまく回らなかったのも、あまりいい点が取れなかったけれど、走ったのがすごくうれしいです。

ウッドカーダービーに参加して

銚子第3団 幸保 一瑛

ぼくはボーイスカウトのウッドカーダービーに参加しました。ウッドカーダービーは、自分で作った木の車を走らせて距離を競うレースです。ぼくは戦争にきょうみがあるので、車のデザインを空母エンタープライズにしました。

まず、木のかたまりをノコギリで切りました。木を切るのはとても大変で手がいたくなりました。細くて短い木を切って、空母の大砲を作りました。色は本物に近づけるために灰色にぬって、飛行機が発着できるように甲板に細い線を書きました。タイヤは竹ぐしとストローとペットボトルのふたで作りました。細かいところがとても難しかったので、隊長に手伝ってもらいながら付けました。

レース当日、みんなの車を見るととても上手でビックリしました。レース本番ではぼくのウッドカーは曲がってしまいあまり距離はでませんでした。でもぼくは空母のデザインが気に入っているのでデザイン賞を取りたいです。レース以外にも初めて会う他の団のボーイスカウトの人たちと自己紹介カードを渡し合いました。丁寧なカードをもらえて嬉しかったです。お昼ごはんをみんなで食べたり、とても楽しい1日になりました。

ウッドカーダービー感想

銚子第3団 石毛 ひまり

はじめての車づくりでした。車づくり中にケガをするなどいろいろ大変だったけどなんとかつくることができました。わたしは、どっちかというデザインに気をいれました。くまの口のところをけずったり、カブの青と黄色でぬったりがんばりました。

ウッドカーダービー当日、名しこうかんの時に6枚も名しをもらえました。くまスカウトがレースをしている時にすごくカッコいい車があっかんしんしました。「わたしも負けてられないな」って思いました。うさぎスカウトの番になってやってみたら、4mも進みました。2回目も4mでした。優勝できたらいいです。

楽しかった工作

銚子第3団 飯岡 青大

くるまをつくるのが楽しかったです。さいしょは、木をきってがんばりました。つぎにタイヤをつくりました。そのとき、タイヤをつくっているあいだに、こがたなでゆびをきってしまいました。きったときはあまりいたくなかったけれど、あとからほんのすこしだけいたくなり、そのあと、またいたなくなりました。こがたなでゆびをきったとき、みんながしんばいしてくれて、とてもうれしかったです。つぎにこうさくをするときは、もったきをつけます。またこうさくしたいです。